

D—21 家政学における主要概念について その 2

昭和女子大 原田 一

1. 科学は判断の体系であり、判断は概念と概念との関係を示すものである。科学たる家政学は、まず、その中で取り扱われる概念の内包と外延を明らかにする必要

がある。従来、家政学では、この点において不満足なものがあつたので、この点を補う。

2. 各概念を理論的に分析するとともに、用語例を集めて、最も適当と思われる内包と外延を設定する。名称によって内容を規定することを避け、独特の用語や定義を捨て、家政学者の共有財として使用し得るものとする。

3. 前回に引続き、今回は、技術、技能、技芸、食物、被服、住居、育児、の各概念を分析した。技術とは、一定の目的のためにする手段、および行動の型をいい、技能とは一定の型に従った行動の能力をいう。前者は社会的存在、後者は個人の心身に固定された存在である。技芸とは芸術的性格をもった技能である。食物とは食膳に供し得べき状態にあるものをいい、食品とは食物の材料となるものをいう。被服とは身にまとうべきすべてのものを指し、衣服のほか冠物・履物、その他の総称。住居とは、住宅・家具・施設・設備・庭園等の総称。育児とは、親またはこれに代わる者が児童の成長発達を助けることである。保育は、主として集团的に職業的に行なわれる育児に使用される。